

西日本正教

No.152

Summer, 2022

西日本主教教区宗務局

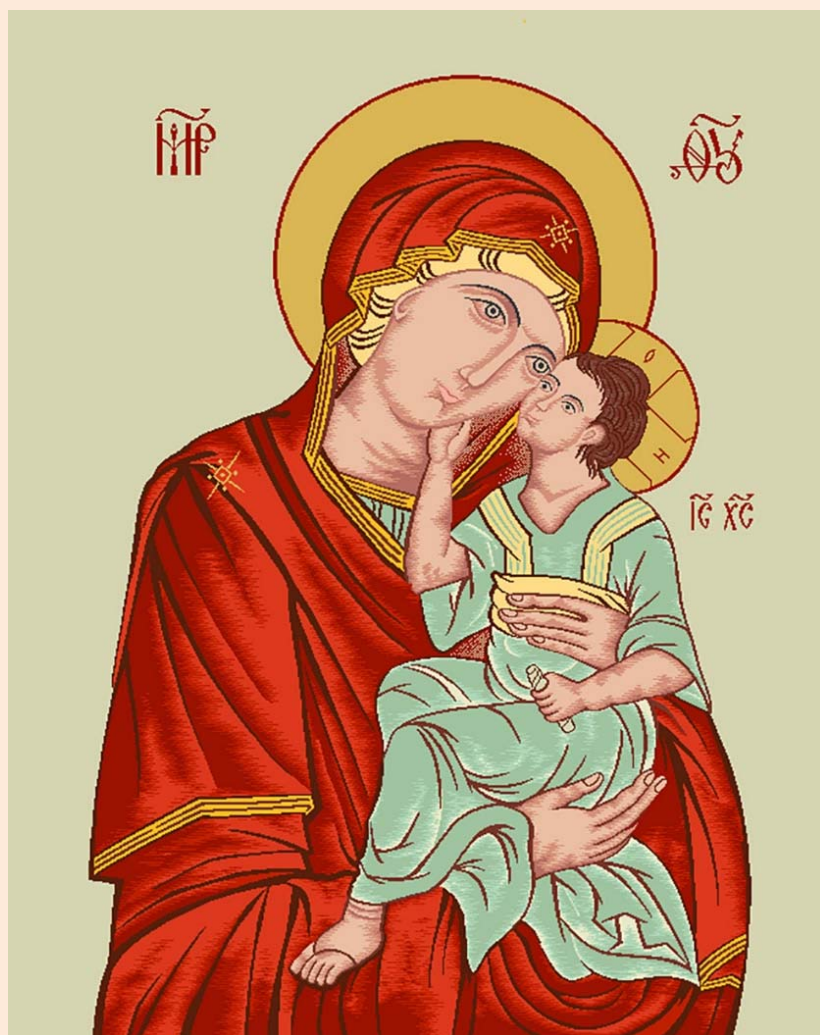
604-0965 京都市中京区柳馬場通二条上る六丁目 283

京都ハリストス正教会内

Email: ocjwdiocese@gmail.com

電話・FAX (075)231-2453

郵便振替 01030-5-18547



京都西陣織イコン「聖母子」原画

西日本主教教区 教区会議

六月一九日（日）、西日本主教教区「教区会議」が大阪正教会・生神女庇護聖堂および信徒会館を会場に開催された。コロナ禍により、過去二年にわたり小規模開催を余儀なくされたが、このたびようやく通常開催となった。

【教役者会議】

教区会議に先がけて、一七日（金）一三時から教役者会議が開催され、過年度の反省と報告。さらに二二年度の教区活動計画案、各教会の活動計画案、情報交換が行われた。

教区内の総信徒戸数は増加傾向にあるものの、定額献金戸数は微減が続いている。これまで教会を担ってきた高齢信徒の永眠の一方、洗礼を受けた若い信徒家庭が経済的に厳しい状況下においていない現状が分析された。

翌一八日（土）午前も教役者で集まり、理事会と教区会議の準備を行った。

【理事会と徹夜祷】

一八日（土）一三時三〇分より理事会。前年度教務報告と新年度予定、前年度決算と新年度予算案、教区分担金案など、教区会議に上程すべき議案に加え、ウクライナ紛争に関連する日本正教会のあり方と姿勢など、多岐にわたる諸課題が協議された。

一七時より聖堂でワシリイ杉村神父（神戸）司祷、ニコライ松田長輔祭（大阪）陪祷で徹夜祷が行われた。

【主日聖体礼儀】

一九日（日）一〇時より主日聖体礼儀。教区の全司祭が陪祷。大阪正教会聖歌隊による美しい聖歌が響き渡った。

参拝者六二人のほとんどが領聖した。十字架接吻の時、及川宗務局長より参拝者への感謝と御礼の挨拶。続いて長司祭ゲオルギイ松島神父（大阪）の七〇歳の古希を祝って、教区神品教役者一同より御祝と花束、大阪正教会信徒からもプレゼントを贈呈。記念写真の後、「幾とせも」が唱和された。

【教区会議】

同日一三時四〇分より教区会議。出席者二人で、他は委任状提出のうえ欠席だった。議長のダニイル府主教座下はリモートでのご出席で、デイスプレイ画面から祝福とご訓示をされた。副議長にグリゴリイ水野神父（人吉）とニコライ山川兄（大阪）、書記にワシリイ杉村神父とソロモン川島伝教者（京都）、議事録署名人にグリゴリイ伊藤神父（名古屋）とエレナ廣石姉（名古屋）師、議事運営委員にナフアナイル小川神父（徳島）とイグナティイ川井兄（京都）が指名された。



松島師（右から4人目）古希祝賀

府主教座下の開会のことばの後、水野師の司会進行で、前年度の業務報告と新年度計画案が教務部長の松島師、全国宣教企画委員会が伊藤師、財務諮問委員会が松島師、諸規則検討委員会が杉村師より、それぞれ報告された。

続いて教区財務部長のサムイル尾又副輔祭（神戸）から前年度決算報告（教区センター決算含む）、会計監査のアルセニイ三井兄（豊橋）とペトル山岡兄（大阪）から監査報告、さらに新年度予算案、教区分担金案、コロナ災害交付金の各教会への配分案が説明され、すべて全会一致で承認された。

今秋には教区主催の講演会二回を予定するなど、コロナ後を見据えた宣教活動を模索。川島伝教者の半田・神戸・徳島等への派遣なども承認された。「西日本正教」は年二回発行予定。冬季セミナーは内容を検討中である。

全国公会の信徒代議員選出と教区会計監査選任（現職の再任）の後、宣教懇談会を行った。

宣教懇談会ではウクライナ紛争に関する意見交換の後、九州管轄の水野師より、九州の現況と厳しい将来像を考

えると、司祭常駐拠点は福岡が最適であるとの貴重な提言があった。最後に宗務局長から教区の牧会宣教方針について、左記の提案がなされた。

一 教区に今ある各教会の維持・安定・運営に尽力する。

二 教区に重点地域を設け、牧会宣教の強化をはかる。

（ア）福岡および九州北部地域
（イ）神戸およびその周辺地域

三 神父個人とその家族に不公平、過重、過酷な重荷を負わせない。教区の神品教役者・教会・信徒が一体となり、みんなで支え合い、教区としての健全な成長を目指す。

この後、府主教座下の閉会のことばと閉会祈祷。聖堂で記念写真を撮影し解散。

久しぶりの盛儀となった教区会議にあたり、開催にご尽力くださった各教会、とりわけ会場の大坂正教会の皆様
に心より深く感謝申し上げます。

（パウエル及川記）



全国公会集合写真（記事は次ページ）



教区会議集合写真

全国公会 開催

【公会第一日】七月九日（土）

東京ニコライ会館において、一三時半開会祈禱、ダニイル府主教座下の開會宣言により二二年度全国公会を開始。代議員定数五〇名中、出席三七名、委任欠席一三名。議長ダニイル座下の指名で、副議長・書記・議事録署名人・議事運営委員を選任。その後、副議長の司会により、府主教座下の訓示、宗務総局長の小池神父より教団活動報告、続いて全国宣教企画委員会（伊藤師）、財務諮問委員会（松島師）、諸規則検討委員会（山手・梶田師）の各委員会報告と、順調に議事が進行。一八時より大聖堂で徹夜禱が執り行われた。

【公会第二日】七月一〇日（日）

午前中、セラフイム大主教座下と三宗務局長らの陪禱する主日聖体礼儀。聖使徒ペトル・パウエル祭を併祭。説教はステファン桑原神父（前橋）。領聖後、永眠教役者記憶リテイヤが執行された。なお、小聖入の時、三司祭（後

述）の祝福が行われた。おめでとございます。

昼食後、一三時一五分より二日目の議事開始。前年度決算報告（小島教団財務部長）、監査報告、予算案上程が行われ、いずれも全会一致で承認。今年度会計監査の選任などの議事後、セラフイム座下の閉会のことば、大聖堂での閉会祈禱と記念写真撮影をもって公会を終了した。

コロナ災害特別交付金について

公会第二日、今年度も総額三千万円の交付が承認された。西日本教区へは五七六万九六〇〇円を支給予定。教団財務が準備でき次第、各教区に送金、個別教会への配布方法などは各教区に一任。なお、この交付金はコロナのため聖堂での祈禱が減少するなど、献金収入が減少した教会をケアするためのもので、昨年度に続き三回目となる。遠く西日本から出席された皆様、猛暑の中、ありがとうございます。

（パウエル及川記）

教団人事

正教時報編集人

長司祭イオアン 小野貞治師（静岡）
（司祭ステファン桑原建夫師と交代）

祝福

ミトラ（宝冠）戴帽
長司祭マルコ 小池祐幸師（一関）

カミラフカ戴帽および

金十字架とナベトロニク佩用

司祭ルカ 田畑隆平師（石巻）
司祭フェオドシイ 市村直巳師（東京）



（左から）田畑師、小池師、市村師

「イスラームと正教会」

司祭グリゴリイ水野 宏

二月一日（金祝）
一三時より、標記の講話をしました。コロナ禍のため、会場でのライブではなく、事前収録した約一時間の動画を視聴いただき、Zoomのオンライン参加者から質疑応答を受けるスタイルです。オンライン参加者は教役者や信徒だけでなく、教会外の一般の方を含めて三五名もいらっしゃいました。



講話では、イスラームの教えや信仰上の習慣などの基礎知識、イスラームの成立の歴史、およびイスラーム社会とビザンチン社会や西欧社会との関わりなどについて述べました。

私がこの講話で意図したのは、イスラームを批判して正教会の優位性を主張することではありません。むしろ、イスラームの教えや価値観を客観的に、かつ正教会の考えとの相違点について

具体的に述べるように心がけました。

なぜなら、異なる宗教、異なる価値観という「アイデンティティの違い」に基づく社会の分断こそが、今日でも世界で戦争や差別を生んでいると考えるからです。そしてその不寛容さを招く原因は、自分と異なる価値観への「無知・無理解」だとも考えます。

実際、欧米社会ではムスリムへの差別や偏見が存在しています。しかし、宗教やその他の価値観の違いを理由に他人を差別することは、「互いに愛し合いなさい」という主の教えに矛盾しませんか、まずは相手を理解してみませんか、というのがこの講話の趣旨です。

興味深いことに、教会外の聴講者から「イスラーム以上に正教会の考え方を知ることができて良かった」という感想が後で複数寄せられました。

正教会は二千年の歴史を通して、世界に存在する多様な価値観を認めつつ、ハリストスへの信仰による一致を追求してきました。皆様がこの正教会の伝統に基づき、愛と寛容をもって世界の多様な人々を受け入れることを願って已みません。

オンライン『奉神礼基礎講座』

講師 マリア松島純子

二〇一七年から対面で始めた『奉神礼基礎講座』、コロナ後、Zoomによるオンライン講座に切り替え、YouTubeで見逃し配信もできるようになりました。

たとえば、昨年は正教聖歌の伝統「お名前」シリーズとして、トロパリ、コンダク、カノン、ステイヒラなどの歌の名称の歴史的背景、聖詠との組み合わせ方などを紹介しました。実技編としては難しい歌を簡単にするワザとして「棒読みのススメ」「八調入門―替え歌のススメ」、また奉神礼を生き生きさせるコツとして「掛け合いのワザ」連続、アンティフォンなどを実際の音源を用いて解説しました。

本講座は「ただただ、難しいいきまりを遵守する」「無理して普通唱歌う」のではなく、歴史的な由来から奉神礼全体の動きの意味を知り、どんな場面なのか、どのように歌えばいいのかを考え、それぞれの教会の事情のなかで、

より簡単な方法、より生き活きする方法を考えるヒントを共有します。「へえっ」という正教面白トリビアも満載。

奉神礼は知れば知るほど面白く、神がなぜ奉神礼を教会に与えたのか、どのように生かされ、時間と空間を越えて今も体験されているのか、神の深慮やメッセージが各所に見えてきます。

どなたでもご参加いただけます。

秋からは、隔月、偶数月の第三土曜日一五時とし、実際の録画ビデオによる「徹夜禱」や「聖体礼儀」の解説を予定しています。将来、コロナの状況が良くなつてくれば、対面での講座との併用も考えています。



「奉神礼基礎講座」URL
http://www.orthodox-jp.com/kyoiku/Lecture_Liturgy/Hoshiinrei-Kiso-online.html

愛と平和の希求

今年二月二四日、ロシアがウクライナに軍事侵攻を開始しました。正教を主なアイデンティティとする人々の国同士の戦争であり、両国の出身者が集う日本正教会にとっても憂慮すべき事態といえます。

教団は三月一〇日、主教会議名義で「愛と平和の希求」と題して声明を発表しました。そこには日本正教会は「あらゆる暴力行為と破壊に反対」し、また「ウクライナにおける紛争の一日も早い終結を切願」すると明記されてい

ます。つまり、日本正教会として戦争反対の意思を表明したものです。

さらに三月二七日、ダニイル府主教座下からモスクワのキリル総主教聖下あてに嘆願書が送られました。これは総主教聖下に「兄弟間の和解と紛争解決に尽力」するよう求める内容です。さらにこれは府主教座下個人だけではなく、日本正教会の「主教品、全教役者、全信徒」はもとより「全ての在日ロシア人とウクライナ信徒」を代表するものだと書かれています。モスクワ総主教はロシア正教会とウクライナ正教会双方の教会法上の最高責任者であり、キリル聖下はそのお立場として、両国正教徒同士の和解のために努力していただきたいということです。

もちろん、世界で戦争が起きている地域はウクライナだけではなく、しかし、いかなる戦争もハリストスの教えに反するものである以上、正教徒である私たちは常に隣人を愛し、平和を求めべきといえます。

それを考えるにあたり、広島地区集會でゲオルギイ松島神父が行った説教を掲載します。(編集部)

平和へのメッセージ

長司祭ゲオルギイ松島雄一

(四月二十九日、広島地区集会にて)

ここには教会らしい立派な聖堂はありません。たくさんのアイコン、たくさんのローソクの灯火、たくさんのキラキラの飾りはありません。しかしだからこそ、ここには、「教会」がはっきりと目に見えます。祈りが心に聞こえます。

ハリストスはこう教えています。

「二人または三人が私の名によって集まるところには、わたしもその中にいるであろう」(マコフエイ一八・二〇)。

ハリストスがここにいらつしやいます。

ハリストスを信じ、ハリストスに希みを委ねる私たちが、ここに集まっています。

病気が治りますよう、暮らしが少しでも楽になりますよう、夢がかないますよう、すばらしい家庭が恵まれますように……。

とりわけ今日、この広島の中で、…日本人々が80年近く平和を祈り続けてきたこの広島の中で、私たちは、ウクライナの地で、同じ正教の信仰に結ばれた無名の兵士たちが、罪のない人々をも巻き込んで、これっぽっちも望んでいないのに、殺し合わなけ

ればならない戦争が一日も早く終わり、平和な日々が取り戻されることを、心から祈っています。

今日は、主イエス・ハリストスの復活をお祝いする復活祭・パスハです。

私たちが祝う復活は、もちろん、私たちのために苦しみを忍び、ついに十字架で息を引き取ったイエスの復活です。その復活は、世の終わりにおける私たち自身の復活でもあります。しかしさらにいつそう重要なことは、これまで死んだようにしか生きてこれなかった私たち自身の、「今、ここ」での、真のいのちへのよみがえり、復活でもあることです。しかし、この、「今ここ」での「私たち自身の復活」とは、どのような復活なのでしょう。

聖使徒パウエルの言葉を聞きましょう。

「あなたがたは皆、信仰により、ハリストス・イエスに結ばれて、神の子なのだ。洗礼を受けてハリストスに結ばれたあなたがたは皆、ハリストスを着たのだから。そこではもはやユダヤ人も、ギリシャ人もなく、奴隷も自由な身分の者もなく、男も女もない。あなたがたは皆ハリストス・イエスにおいて一つだから」(ガラテヤ二・二七)

そうです、ここはロシアの教会ではありません。ウクライナの教会でもありません。ギリシャの教会でもジョージアの教会で

も、アメリカの教会でもありません。日本の教会ですらありません。私たちがしばらくの間、その市民として生きねばならない、どんな国の教会でもありません。

そうです、私たちは、ハリストスによって一つに結ばれた愛の一致を生きるハリストスの教会、「神の国」のメンバーです。

そこでは、一人の喜びがみんなの喜びであり、一人の悲しみがみんなの悲しみであり、みんなの悲しみ、みんなの喜びが、一人ひとりの悲しみであり喜びです。

この、教会にある愛の一致が、今私たちが分かち合っている愛の一致が、争い合う世界を変えます。

私たち一人ひとりが、私たちがそしりあい、あざけりあい、憎みあい、そして傷つけ殺し合うことを、…私たちのために、それ、あざけられ、憎まれ、傷つけられ、ついに殺された神さま、そう主イエス・ハリストスの悲しみとして知り、心からそんな生き方、そんな心を、悔い改めてこそ、真の平和への道が開かれて行くと信じましょう。

もう一度、最後に主イエスのみことばに聞きましょう。

「はっきり言っておくが、どんな願い事であってもあなたがたの二人が、地上で心一つにして求めるなら、わたしの天の父は、それをかなえて下さる。」

京都市神女福音聖堂

国重要文化財指定に関連して

伝教者ソロモン川島大

京都教会の取組み

京都教会では聖堂の国重文指定を期に、新たな世代にアプローチするための試みを昨年末より始めています。一人でも多くの教会ファンを獲得できるように、今後も試行錯誤に努めて参ります。

一 SNS開設と日々の発信

ツイッターとインスタグラムにより、写真主体の地域情報を含めた発信を心掛けています。また、重要文化財指定の恩恵もあり、電話やメールで引き受けた予約制拝観の日時をSNSで公開して同席者を募ることで、若干名だった予約が今では毎回一〇名以上に増えました。

二 聖堂拝観記念証の作成

来会の記念になる品物として「聖堂拝観記念証」を作成しました。京都の寺社を中心に「切り絵御朱印」が人気を博していることから、ベロースとなる紙のレーザーカットを業者に依頼し、伝教者が聖句を書き入れ、スタンプを押す

スタイルを採用。五〇〇円の献金にて、聖句の解説を交えながら頒布しています。京都新聞の取材を受け、七月二二日に記事が掲載されました。手にした方がインターネット等で紹介すれば、さらなる宣伝効果が期待できるでしょう。

三 教会コースターの配布

及川神父様のアイデアを形にし、手分けして協力先に配布しました。教会のご近所さんだけでなく、日頃SNSで当教会を最良にしてくださっている商工会、和・洋菓子店、ホテル、銭湯等にも重要文化財指定ならびに秋期特別公開の挨拶を兼ねて訪問しました。

参考・京都新聞の記事(抜粋)

ギリシャ正教(東方正教会)の教えを伝える京都ハリストス正教会(京都市中京区)が、聖堂拝観記念証として「主印」を作った。明治時代から京都の街に溶け込んできた正教会だが、一般の拝観者向けに記念品を作ったのは初めて。切り絵で聖堂を描いた繊細なデザインで、キリスト教版の「御朱印」として多くの人に親しんでほしい、との願いを込めた。(中略)
日露戦争や第二次世界大戦などの荒波を乗り越えて信徒らと歩んできた教会を、より多く

の市民に知ってもらおうと、一昨年秋季に着任した伝教者のソロモン川島大さん(二八)が今年二月に記念証を発案した。近年は寺社の御朱印だけでなく、書店巡りでもらえる「御書印」や、城の登城記念の「御城印」など多様な印章が人気を集めていることから、拝観記念品にできると考えたという。

六月にはオリジナルのコースターも作製し、拝観者が持ち帰れるようにしたほか、地域の店舗にも配った。川島さんは「靴を脱いで聖堂に上がるなど、日本の文化も取り入れながら発展してきた。地元に愛される教会であり続けるための努力を続けたい」と話している。

主印は五〇〇円以上の献金をした人に頒布する。(二〇二二年七月一二日)

その他各種企画

この他にも、京都教会では牧会宣教のための様々な企画・教会行事を展開しています。

一 「京都聖堂調査報告書」

関係官庁・役所、大学市町村図書館等、一〇か所へ贈呈。

二 「藤袴スタンプリリー」

一〇月七日（金）～一〇日（月祝）

三 「藤袴の夕べ 朗読会」

ソロモン川島大伝教者 京都聖堂にて

一〇月九日（日）一八時～一九時

四 「京都聖堂特別公開」

聖像画家イリナ山下りん小イコン展併催

十一月八日（火）～一八日（金）

協力・京都古文化保存会

五 京都聖堂デザインパッケージ商品、

豆政と共同開発。

六 リーフレット「聖ニコライの旅した京都

」 『宣教師ニコライの日記』より

七 麻生哲郎氏「京の洋館 絵画展」参加

虎屋京都ギャラリー（御所西）

一〇月二十九日（土）～十一月四日（日）

八 「松室重光の設計監理した京都三大建築を巡る」 乗合観光タクシー、企画検討中

関連の教区行事など

聖堂の国重文指定に関連し、教区宗務局でも左記のような企画をしています。

一 アナスタシヤ山崎佳代子先生

「蛭となって 詩人・山崎佳代子朗読会」

一〇月一〇日（月祝）一五時～一六時

二 サワ鐸木道剛先生講演会

「近代芸術家としての山下りん

人間中心主義を支える神中心主義」

十一月一三日（日）一四時～一六時

三 国重文指定記念「聖母子イコン（聖像）」

京都の老舗「龍村美術織物」と共同制作

京都市の関連イベント

五月二二日（土）午後、京都市生涯学習総合センター（京都アスニー）において「ハリストス正教会の教会建築―その変遷と京都聖堂の位置づけ」と題する講演会が開催されました。

この企画は京都学講座の一角であり、中高年層を中心に五〇人ほどが聴講。講師を務めたのは、聖堂の国重文指定にご尽力くださった京

都市文化財保護課の石川祐一氏です。前半に正教会の概要や聖ニコライによる日本への布教について述べ、後半では京都聖堂の建設経緯や特徴が紹介されました。

一八九〇年代から一九一〇年代にかけて、当時のロシア正教会の聖シノド発行「聖堂雛型図面集」に基づく教会堂が、京都をはじめ国内にいくつも建てられました。とはいえ、各地では技師の技量あるいは経験不足などにより、簡略化したり組み合わせたりして対応せざるを得なかったとのこと。その一方で、京都聖堂の場合は西洋建築に造詣の深かった松室重光氏が設計に携わったからこそ、図面を忠実に再現できたそうです。

コロナ禍のため、質疑応答の機会は設けられなかったものの、石川氏によれば「日本の正教建築において現存する最古の本格的な木造聖堂」に奉職する筆者にとって、実に学びの多い

二時
間で
し



豊橋正教会修復と関連行事

国の重要文化財に指定されている愛知県、豊橋聖使徒福音者マトフェイ聖堂では、昨年からの修復工事が行われている。聖堂外周と内部には、大きな足場が組まれ、防護ネットに包まれ、祈祷、聖堂拝観等も中止となっている。

文化庁調査官による現地指導が三月九日に行われ、耐震の構造補強案および、屋根葺きと外壁塗装の仕様について承認が得られた。耐震補強については、聖堂の床下に新規のコンクリート基礎を設置し、聖堂とこの基礎を金具で固定すること、聖堂の柱を金具で補強する計画などが考案されている。

このたび聖堂外に搬出、保存されている聖像（イコン）などを活かして、次のような行事が開催された。

小企画展「豊橋ハリストス正教会」

於：豊橋美術館

この企画展は、四月二日（土）～五月末まで、午前九時～午後五時まで、豊橋美術館の二階、第二展示室において、入場

無料で開催された。

聖像画家イリナ山下りんのイコン数点、「ゲフシマニアでの主の祈り」「主の降誕」「主の昇天」「主の寝りの聖像」などのほか、古い大きなロシアイコン、聖堂設計図などが展示された。（左の写真）

ちょうどコロナ禍による、まん延防止処置が解除され、桜など春の花と新緑の美しい時季であり、吉田城跡の公園内にある豊橋美術館に、とても多くの観衆が訪れた。観衆には新たに作成された「聖堂拝観案内」カラーチラシが配布された。

聖堂保存修理事業「現場見学会」

五月二日（土）見学時間、午前一〇時と一一時、午後一時と二時の計四回、各一時間。普段は見学できない聖堂天井裏、屋根小屋組、内装裏側などが、西澤教授らのご案内で披露された。見学者数八〇人、報道機関（メディア）なども取材され、新聞などで広報された。

講演会 豊橋美術館

びはく講座「山下りんの生涯と画業」

丸地加奈子氏（学芸員）

五月二日（日）一四時～一五時半まで、同館一階講義室で開催された。定員二四人、豊橋正教会には数点の、聖像画家イリナ山下りんのイコンが所蔵されており、これらを鑑賞し、なおかつ詳しい解説をうけられる貴重な機会となった。

豊橋美術館のスタッフの皆様に厚く感謝と御礼を申し上げます。

（パウエル及川記）

地区集会 開催

復活祭にあたり、広島と福岡県・小倉で地区集会が開かれました。

広島地区集会

四月二十九日（金祝）、三年ぶりに広島地区の復活祭が、昨年一月に引き続き広島市の文化施設「アステールプラザ」の音楽室を借りてお祝いされました。今回は当日、講話を下さったソロモン川島伝教者をはじめ、広島近隣からの参加者も合わせ二三名が参加し、「祭りの祭り、祝いの祝い」である聖大パスハの喜びを分かち合いました。ウクライナ出身者の方たちもロシア出身者の方たちも、ともにご聖体を分かち合い、平和を祈ることができました。

広島集会に参加して

広島集会は常住司祭も教会堂も持たないため、大阪教会の司祭が出向き、自治体などの会議室を借りて年二回、春と秋の祝日に聖体礼儀を執り行っています。今回は西

日本主教教区からの派遣により、私も参加させていただくことができました。神学校入学前、個人的に訪れた金沢以来となる祈禱集会です。

当日は朝からあいにくの雨でしたが、それでもコロナ禍で半減された定員二五名ギリギリの二三名もの参拝者（ゲオルギイ松島神父様ご夫妻、大阪教会からの応援二名、筆者を含む）が集い、主の復活の喜びを分かち合いました。せつかくの機会だからと、奉献礼儀の実況解説を依頼されたのですが、喜ばしいことに信徒の方々はみな真剣な眼差しでした。

神父様は福音後の説教において、世界中の人々が平和を願って来た広島地から、私たちは国や民族という狭い枠組みを越え、ハリストスによる愛の一致に結ばれ、今般の正教徒同士の争いが一刻も早く終わることを祈ろうと述べられました。緊迫した国際情勢の中、「亡われたる羊の如く迷う（聖詠一一八・一七六）」信徒にとって、「母鶏が其雛を翼の下に集むるが如く、爾の諸子を集めん（マトフェイ二三・三七）」という姿勢は心強く、ひと時の安らぎの糧になったことでしょう。

筆者からも、「ハリストスの復活は私た

ちの復活の先取りでもある。集会が開けない時や参加できない時には、讚美の言葉を唱えつつ、主が復活された日を心に留めてほしい」とお伝えし、卵やクリーチの成聖を経て散会しました。

この度は貴重な経験をさせていただき、ありがとうございました。

（ソロモン川島記）

小倉地区集会

五月二十九日（日）、北九州市・小倉の大
手町練習場で、地区集会として復活大祭の
聖体礼儀を執り行いました。グリゴリイ水
野神父（人吉）の司祷のもと、北九州市と
福岡市在住の信徒が参拝しました。また京
都教会からソロモン川島伝教者が出張し、
誦経と説教を務めました。

小倉集会に参加して

九州管区・グリゴリイ水野神父様の試み
によって、長らく途絶えていた小倉での聖
体礼儀が復活しました。

かつてこの地域は自前の教会堂を擁する
ほどの規模を誇ったそうですが、現在では
わずかに二世帯を残すのみとなっています。
数年前までホテルの会議室を借りて「学び
の会」は開かれていたものの、聖体礼儀に
ついては参拝を希望する信徒が、近隣教会
に出かける必要がありました。

初めてとなる今回は、コロナ禍のため一
般向けの事前告知は行われていません。そ
れでも、会場の音楽練習室には福岡伝道所
からの親子を含めた九名が集い、少人数な

がら厳かに主の復活をお祝いしました。

説教を仰せつかった筆者は、当日が瞽者
の主目であることを踏まえつつ、「肉体で
は見る事ができても霊魂では盲目なファ
リセイたちに倣うのではなく、肉体の目で
見ることでできる私たちこそ、盲人たちの
ごとく『心の目』（コリン後四・四）を
研ぎ澄ませましょう」とお伝えしました。
参加者からは、継続して地区集会の開催
を願う声も聞かれています。ゆえにぜひと
もこれを契機として、コロナ後には新しい
信徒の獲得など、再興を願わずにはいられ
ませんでした。（ソロモン川島記）

豪雨災害から二年

人吉のいま

七月四日、人吉を襲った豪雨災害から二
年を迎えました。被害が最も大きかった市
中心部では、だいぶ旅館や飲食店などが営
業を再開しましたが、未だに更地になっ
ている場所も多い現状です。

また、JR肥薩線は今も再開のめどが立
っておらず、外から人吉に鉄道で来るのは
不可能であることは変わっていません。自
分で車を運転できない人々、特に高校生の
通学などは大変な状況です。

仮設住宅に住んでいる人々もまだ二千人
ほどいます（人吉市の人口は三万人）。

人吉教会では旧司祭館を、被災者支援ボ
ランティアの関係者に今も無償でお貸しし
ています。コロナ禍で被災児童の子ども会
は取り止めています。毎週末に被災者へ
の支援物資の配布会が行われています。

復興への道のりはまだ険しいものがあり
ますが、今後も皆様のご支援とお祈りを
お願い申し上げます。（グリゴリイ水野記）

ハリストス復活！

各地の復活祭

京都教会では四月二四日（日）午前
〇時より復活大祭祈禱・聖体礼儀。参
拝者六八人でした。



（パウエル及川記）

大阪教会の復活大祭
の写真です。堂役を務
めているゴルディ松井
兄は神学校入学が決ま
りました。
（ゲオルギイ松島記）



名古屋教会では四月二四日に復活大
祭をお祝いしました。

今年もコロナ禍により深夜からの開
催を断念し、復活祭当日の朝からの祈
禱となりました。当日はあいにくの雨
模様で、十字行は室内となりました。
参拝者九〇名ほどでした。



五月一日、半田教
会での復活祭も雨模
様でしたが、十字行
の時は雨がやんでお
り、無事に行うこと
ができました。



豊橋教会では四月二九日に復活祭を
お祝いしました。

あいにくの雨模様でしたので、十字
行で会館を一周した後に、聖体礼儀を
始めました。
パスハのトロパリ、イパコイ、コン
ダク、イルモスなど復活祭をテーマに
した聖歌を歌いました。参拝者は二二
名でした。（グリゴリイ伊藤記）



今年の神戸での復活祭は新型コロナ
の影響を考慮し、昨年と同様二四日の
日曜日朝に十字行と復活祭聖体礼儀が
行われました。当日朝の神戸市の天候
は雨であったため、十字行は境内では
なく集会室を三周しました。聖体礼儀

はイコノスタス左右のXB（ハリストス復活）の灯りが点り、とても喜びに満ちた祈祷の時間となりました。聖体礼儀後にはアルトス、クリーチ、卵の成聖が行われました。無事に祈祷が護られ感謝です。（ワシリイ杉村記）



祈して少しでも心の安らぎとなるよう、願いたいと思います。参拝者一七名、領聖一二名。

五月一日、柳井原教会で主の復活大祭聖体礼儀が執り行われ、地元・柳井原、岡山、遠くは鳥取から信徒がご家族でこの日を楽しみに参拝された。参拝者一三名、領聖一〇名。各家庭で染められた卵やドーナツなどの乾酪菓子などに聖水が注がれ、今年も会食はなく解散に至った。来年こそ食事などをしながら歓談したいものです。残念ながら写真はありません。

（ナファナイル小川記）

徳島教会では四月二四日、主の復活大祭に生憎の雨で十字行を取り止め、聖体礼儀のみとさせていただいたが、祈祷終盤にはウクライナの方々も参拝され、一日も早く紛争が無くなることを願い、お祈りしました。

彼らの中には従姉妹を訪ね、避難させている兄弟姉妹がおられ、教会に参

ました。教会でのお祈りが一番大事なものは当然ですが、子ども時代に教会に来て、少しでも楽しい思い出を作ってもらえたら、将来が楽しい思いではないかと思えます（グリゴリイ水野記）

九州管区では四月二四日に鹿児島、五月一日に福岡、八日に人吉、一五日に熊本と、四週間かけて復活祭を執り行いました。特記事項として、福岡で参拝者一六名中五名、人吉では同じく一六名中六名が中学生以下の子どもでしたので、祈祷後に境内でエッグハントをしました。当たりくじの卵を拾った子には神父からプレゼントを進呈し

2022年 京都生神女福音大聖堂

国 重要文化財 指定

記念イコン ご案内

京都 西陣織

龍村美術織物

「聖母子イコン」

繊細・優美なイコンが
安らかな祈りを恵みます。

ご家庭の祭壇に、
特別な贈り物にどうぞ。



↑イコンのデザインイメージ。限定品、わずか60点のみ謹製。

1983年ころフェオドシイ府主教の祝福により頒布された聖母子イコンの原画デザインを採用。お届けする聖像は、職人の手仕事により、新たな織紡、色彩、額装等になります。

- ・額装（外寸） たて 約45cm よこ 約36cm 重さ約1.0kg 厚さ約2.5cm
イコンサイズ たて 約40cm よこ 約31cm
- ・木製額縁 アクリルガラス仕様 おもにかべかけ用 寸法・重さ等は予想値
自立させるためのスタンドは同梱されていません。
絹（シルク）織物のため 陽ざしの強い場所でのご利用をお控えください。

・イコン献金 1点 38,000円（送料込、北海道～沖縄までの国内）

・事前予約 1点 35,000円（送料込、北海道～沖縄までの国内）

上記は正教会と信徒向けの献金額です。未信徒へは別の献金額になります。

事前予約、22年9月25日まで。完成したイコンは、11月以降、順次発送の予定

✠ 申込先 〒604-0965 京都市中京区六丁目283

京都ハリストス正教会

☎Fax 075-231-2453

〈献金送金にご利用ください。なお郵便控証を領収証とさせていただきます〉

郵便振替口座「京都ハリストス正教会」01070-6-16770番

イコン発送時に郵便振替用紙を同封します



専用フォームから
ご予約いただけます

推薦書籍のご案内

及川信 『みちびきの星』

株ヨベル・1冊 1540円（税込）



及川神父様が主の降誕をテーマに書き下ろした7つの小品集です。童話の形をとって、生きることの意味を現代人に問いかける素晴らしい内容です。

A. シュメーマン著・松島雄一訳 『世のいのちのために』

新教出版社・1冊 2640円（税込）



アレクサンドル・シュメーマン神父の名著を松島神父様が翻訳しました。今年4月に再版！ 正教徒の方なら誰にでもお勧めできる一冊です。

中西裕一 『ギリシャ正教と聖山アトス』

幻冬舎新書・1冊 1056円（税込）



中西神父様（東京）が、ギリシャ・アトス山の修道院での生活体験を交えて書いた正教会の入門書です。写真家のご子息が現地で撮ったカラー写真入りです。

《その他の日本正教会の頒布書籍については、各教会にお問合せください。》

